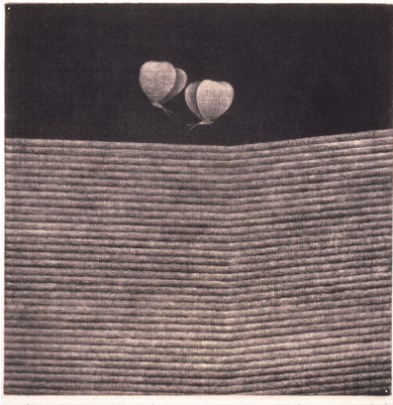


# ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 銅版画体験教室 2013年



浜口陽三「2匹の蝶」 1977年 メゾチント

## モノクロームメゾチント体験教室 6月8日(土) 14:00~17:00

モノクロームメゾチント技法を使って、製版から刷りまでを行う初心者向けの教室です。

1回の講習でポストカード大の作品を完成させます。

日時: 2013年6月8日(土) 14:00~17:00

講師: 江本創(アーティスト)

会場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定員: 18名(抽選)

受付: 往復はがきでお申し込みください。※5/27(月)必着

参加費: 1800円+入館料

初心者  
向け

必要事項をご記入の上、往復はがきでお申込ください。応募数により抽選となります。  
抽選結果は返信葉書で通知します。(×切の翌日発送)

数名と一緒に参加希望の場合も1通の往復はがきでお申込みいただけます。

代表者のご連絡先と、参加希望者のお名前をご記入ください。

<p>郵便往復はがき 103-0014</p> <p>往信</p> <p>ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 東京都中央区日本橋 蛸殻町一之三十五の七</p>	<p>郵便往復はがき □□□-□□□□</p> <p>返信</p> <p>氏名</p> <p>ご自分の住所</p> <p>①ご希望のコース名と開催日 ②氏名(ふりがな) ※数名と一緒に参加希望の場合は 全員の氏名 ③郵便番号・住所 ④電話番号(連絡先)</p>
---	--

# メゾチント 体験教室 Q&A

## Q1.メゾチントって どんな技法?

下絵サイズ:12×7.5cm(縦横どちらでも可)

### A1. 銅版画の技法のひとつ。ビロードのような画面が特徴です。

銅の板に施した凹部分にインクをつめ、凸部分の余分なインクはふき取って強い圧力で紙に刷るのが銅版画。メゾチント技法では、最初に版全面にぎざぎざの傷をつけ(目立て)、ビロードのような黒い画面をつくります。(当館の体験教室ではあらかじめ目立て加工のしてある銅板を使用します。)

明るく(白く)したい所は「スクレーパー」という道具でぎざぎざを削り、インクが溜まる量を減らします。ぎざぎざが浅く、密度が低くなるほど明るく(白く)なり、微妙な削り加減で美しいグラデーションの表現が可能です。えんぴつで黒くぬりつぶした画面に消しゴムで絵を描くようなイメージです。

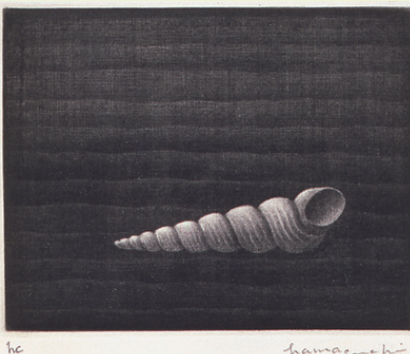
## Q2.どんな下絵を用意したらいいの?

### A2. 浜口陽三の作品を参考に見てみましょう。



左上:「猫」1937年

ドライポイント技法による作品。(今回の教室ではこの技法は使いません)銅の板に先のとがった針のような道具で引っ掻き、そこにインクが溜まり、刷ると黒くなります。「線」で描くのに向いた技法です。



左下:「巻貝」1959年

メゾチント技法による作品。(今回の教室で使う技法です)暗い背景のから白い巻貝が浮かびあがります。よくみると、線ではなく、黒の「濃淡」で描かれています。貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかという「線」の表現には向きません。

下絵を描くときは白…グレー…黒の、色の濃淡を意識して、えんぴつなどで塗り分けてみてくださいね。

そのほか分からないことがありましたら美術館までお問い合わせください。